

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1193200183		
法人名	社会福祉法人 晃樹会		
事業所名	らんざん苑グループホーム		
所在地	埼玉県比企郡嵐山町越畑1330		
自己評価作成日	平成 30年 10月 10日	評価結果市町村受理日	平成 31年 1月 17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社プログレ総合研究所		
所在地	埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88 逸見ビル1階		
訪問調査日	平成30年11月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者の居住空間は1階に限定しており、災害時の避難を迅速に行うことができる。建物自体も地震、火災に強い鉄骨造りになっている。同法人の介護老人福祉施設の看護師と連携することで医療面の相談も厚く対応できている。毎日の食事は季節感を取り入れた手作りの食事をご提供し喜んでいただけている。月ごとに丁目合同のレクリエーションやおやつ作り、フラワーアレンジメントを企画している。同法人の介護老人福祉施設と連携し合同の夏祭りや敬老会を行っており、地域の方との交流の機会になっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成28年に新築移転した事業所で田園地帯に位置する。中庭に面したテラスからは、里山の風景が広がっており、スケッチやお喋り、歌を口ずさんだりと思いいに過ごしている。フロアでは、音楽にあわせた体操を、職員をモデルにオリジナルDVDを作成し、利用者と毎日行っている。セラバンドを活用した体操も行い効果を上げている。また、活動量を増やす工夫として、フェルトのフルーツを隣のユニットまで移動し吊るすツリーを作成し楽しみながら歩行できるようにしている。職員間で話合う機会も多く、プロアの扉の開錠、日の中庭へ通じる扉の開錠を全員で考え決めている。法人全体としても防災意識は高く、災害対処計画を作成している。総合防災訓練では、消火器訓練、起震車体験など地域住民と一緒に取り組んでいる。地域の障害者施設と防災協定を結び、避難訓練には相互に参加している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼で毎朝、全員で理念を声に出して言うことで常に意識し共有している。会議の際には理念に基づいて提案、決定をしている。	法人理念と職員と考えた事業所理念がある。誕生日を祝いの声掛けに涙する利用者や表情豊かな頃の写真でポートレートを作成するなど理念である「家族のように、共に笑い・楽しく」を考えたケアを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお花見スポットに出掛けて地域の方と交流をしている。法人合同の夏祭りでは地域の方も招いて一緒にお祭りを楽しんでいる。	自治会には加入し、近隣とは顔見知りである。散歩途中で挨拶を交わしたり、季節の花や野菜の差し入れがある。ボランティアの来訪も数多くあり、オカリナ・演劇・手品など利用者に喜ばれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護の相談、施設見学は随時受け付けている。役場からの依頼で認知症サポーターの講師を務めることがある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では入居者の状況報告や写真を見ていただきながら行事報告をしている。意見、提案があればサービスに活かすようにしている。	期初にスケジュールを決め、利用者、家族代表、行政職員、包括職員、区長、法人本部職員の参加で2ヵ月毎に行われている。写真を活用した事業報告や地域の課題について話し合われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険担当課の課長、担当者には運営推進委員になっていただき、現状報告や行事参加をお願いしている。認知所サポーターの依頼があれば協力して行っている。	行政担当者は、運営推進会議に参加しており、交流は深い。認知症サポーター養成講座の依頼があり、中学校で劇をまじえて開催したことがある。埼玉県認知症ケア向上事業に参加し、幅広い地域で活動している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	直接的な身体拘束はもちろん、言葉での拘束、過剰な服薬も行っていない。各ユニットの出入り口は解放して自由に出入りしている。玄関だけは安全のため常時施錠している。	2ヵ月毎に勉強会を開き、欠席者には事前に意見を聴取し、議事録は回覧・押印し共有している。話し合いで、フロア間のドアの開錠、日中の中庭のドアの開錠するなど決めている。外部研修にも参加し、事業所で伝達研修を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修に参加している他、施設内にて高齢者虐待の研修を行っており、職員同士で間違えながらいよう相互確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は該当者はいないが、研修等には参加し学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には身元引受人の方に十分な説明を行い、疑問点等の確認も行き、納得のうえで署名、捺印をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族との懇談会の機会を設け、意見、提案、疑問点等をいただき、運営に反映させている。またご家族の面会時等に相談や要望があればその都度十分に時間をとって意見交換をしている。	面会時に意見を聞くようにしたり、意見交換会を設けている。活動量の増加要望に対し、ユニットを超え、建物の端から端までフェルトで作成したフルーツを張り替えるシステムを導入し、歩行量の増加を図っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月会議を設け、職員全員から意見、提案、疑問点を挙げてもらい、改善に努めている。随時、必要なことは管理者に相談できる環境作りを努めている。	職員意見は聞くようにしている。職員発案で、毎日行う体操を、利用者に分かりやすくするためオリジナルDVDを作成したり、BBQやユニット対抗ボウリング大会などが企画され、利用者に喜ばれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	安心して業務に入れるよう各ユニット2名以上常勤職員を配置している。定期昇給、特別昇給、賞与、処遇改善費等を支給している。福利厚生助成金を支給することでストレス緩和を図っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	OJTの他に外部研修の参加を推進している。担当職員を講師として内部研修を毎月行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者が「埼玉県認知症ケア向上事業」のメンバーであり、他施設の職員との交流機会を持っている。職員も積極的に外部研修に出て交流の機会を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談時、家族と本人の面談を行い、趣味、生活歴等もわかる範囲で聞き取り、生きがいや趣味が継続できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時、困っていること、要望や不安をじっくりと伺い、受け止め、今後も相談しやすい関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	町内、法人内のサービスについても説明し、現在の状況で、ご利用者にどのようなサービスが必要か、グループホーム入所が適切なのかを一緒に考えています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に掃除をしたり、おやつ作りや食器の後片付けを手伝ってもらう等、共同作業の楽しさを感じていただきながら過ごしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	時間を問わず自由に来苑していただき、一緒にお茶を飲んだり、行事に参加してもらったりしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人との外出は自由にしてもらっている。	友人の来訪や電話が数多くある。友人が来訪し居室でお茶やお喋りを楽しんでいる方、趣味のミニ傘制作を継続している方、家族と共に温泉やひいきのうどん店に通っている方がおり、これまでの生活が継続している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共通の趣味や話題をみつけることのお手伝いをさせてもらい、ユニット内が仲良く温かい雰囲気になるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	該当する方はいないが、サービス利用が終了してもこれまでの関係を大切に、相談、支援に努める。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意向については本人が語る場合にはそれを受け止め、語れない方でも表情、態度から推察している。会議でもその方がなにを望んでいるのか見当し思いに沿うように努めている。	生活歴・言動・家族情報から思いや意向を把握するようにしている。情報は、日誌、申し送りノートに記入し職員で共有している。言語での表現が難しい方は、表情や仕草から読み取るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの経過を本人、家族、ケアマネ等から詳しくきいている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月のモニタリングにて心身状態、新たなニーズ等の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族との話し合いや職員間の連絡、相談、会議により現状に即したケアプランを作成している。	6ヶ月毎に見直している。担当者が、毎月モニタリングを行い、会議で検討している。計画には、意向、本人らしさを求めて、絵を描く時間や歌を楽しむなど具体的な支援方法を記載している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録を基本とし、気づきや改善点については連絡ノートや会議録により全員で情報共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	それぞれのニーズ、その時々々のニーズに合わせて既存のサービスに捉われない柔軟な支援を目指している。気分転換の外出の頻度等もそれぞれ個別性を考慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員、消防署、訪問理容、訪問歯科、傾聴ボランティア等、様々な方の協力を得ながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的にはご家族に対応していただいている、難しい場合は職員が同行している。主治医による月に1回訪問診療がある。	かかりつけ医を継続している方には、受診時に事業所での様子を情報提供している。提携医の往診があり、専門医の紹介など適切な受診ができるようにしている。場合により職員が受診の付添をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを看護職に伝え、適切な看護や受診を受けることができる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時、病院関係者と連絡を取りながら状況確認している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に終末をどう望んでいるかを本人、家族と話し合っている。その後も状態によりその都度意思確認をしている。	入居時に、重要事項説明書にもとづき説明している。家族から終末期までの要望があり、事業所として出来る事、出来ない事を説明している。看取り経験のある看護師等からアドバイスを受け、重度化・終末期に対応する準備は整っている。	社会的ニーズも多く、今後は重度化・終末期の対応は必要なものとなっていく。研修・自己研さん等で職員のレベルアップを図り、事業所として重度化、終末期に対する意識の醸成を期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応、連絡体制、AEDの使用方法について訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練で初期消火、119番通報、避難誘導の訓練をしている。それ以外に、夜間想定での避難訓練も行っている。	避難訓練は、消防署員立ち会いのもと年2回、自主訓練を年1回行っている。法人本部と共に一時福祉避難所となっており備蓄品も整備されている。また、障害者施設とも協定を結び、互いの訓練に参加している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに十分配慮した声掛けや対応を心がけている。	個人情報について研修を行い、ファイル等は、鍵付きロッカーに保管している。声かけ等についても職員間で話し合っている。トイレは、カーテンと扉の二重であり、おむつ交換時等の視線、臭気等に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で、ご本人が希望や意見を話しやすい環境を作り、自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合に関わらず、ご利用者の意思、気分、決定を大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類はなるべくご家族に用意していただき、その方らしいおしゃれができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理員による手料理を召し上がっていただいております。とても好評をいただいております。役割の一つとして、一部のご利用者には食器洗いを手伝っていただいております。	おしぼりの用意やテーブル拭き、食器拭きを手伝う方もいます。中庭の家庭菜園での収穫では、食べ方を利用者と相談しながら決めています。利用者参加のおやつ作りを行っており、だんごやおはぎなど好評です。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態、量を個別に設定し配膳している。水分量は一日1リットル以上を目安にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きを行っている。義歯の方は夜間は洗浄剤に浸している。口腔内に異常があった場合には早急に訪問歯科に診ていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時のトイレ誘導の他に一人一人のパターンに合わせた支援を行い、プライバシーを傷つけないよう努めている。現在は全員がトイレでの排泄を維持できている。	排泄チェック表を利用し、トイレでの排泄が行えるよう支援している。現在は、日中みなトイレでの排泄である。夜間は、おむつ対応の方もいる。トイレ誘導への声掛け・ドアの開閉には、十分に配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排便チェックを行っている。水分補給や体操により、できるだけ自己排便できるよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の曜日、時間は決まっているが、その方の生活を尊重し、その方のタイミングに合わせてられるように可能な限り調整している。	希望すれば毎日入浴可能である。要望があれば、同性介助している。拒否の強い方には、時間帯や声掛けする職員を替えたり、好きな民謡の話題を提供しながら勧めている。柚子湯、しょうぶ湯等とり入れている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は決めてあるが、起きていたい方、余暇活動を希望の方は自由に過ごしていただいている。環境を整えることで気持ち良く休んでいただきたいが、どうしても必要な方は医師と相談のうえ、眠気を促す薬を処方されることもある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医に処方してもらい、職員が複数人でチェックすることで誤薬を防いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	残存機能や生活歴を活かした趣味を楽しんでいただいている。思い思いに自由に参加できるフラワーアレンジメントが人気がある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望に沿って散歩やドライブに出掛けられるよう努めている。天気や外気温により見合わせることもある。ご家族との外出はいつでも可能。	気候のいい時期は、散歩に出かけ、田植えや稲刈り、作物の生育状況について話しながら行っている。季節には、桜、あじさい、ラベンダー、コスモスと季節の花の見学に出掛けている。特に、近隣のあじさいで有名な寺院は利用者のお気に入りとなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはご自分でお金を所持していただくことはなく、事業所でお預かりしている。お小遣いは医療費やおむつ代、本人が買いたいものに使っていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族への電話は基本的には自由にできるように支援している。電話があまりにも頻繁でご家族が疲弊してしまうようなケースは職員が説得することもある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	冷暖房により適切な温度を保っている。行事写真や季節ごとの飾りを掲示することが、ご利用者同士の会話のきっかけになっている。	フロアでは、健康体操・口腔ケア体操が行われている。利用者と季節を感じる飾付けを制作したり、ユニット合同での企画も多くあり、対抗ボウリング大会やビンゴ大会など行われている。掃除は、毎日行われ手伝う利用者もいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合うご利用者同士で居室を行き来したり、テラスに出てお話をされたりと自由に過ごしていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	チェストや置物等、ご本人の好みに合わせて環境を整えている。基本的には使い慣れたものを持ちこんでいただいている。	エアコン・クローゼット・ベッド・マットレス・カーテンは備え付けである。各部屋に、温度・湿度計を設置し、テーブル・仏壇等を持ち込み個人の空間を作っている。表札の飾りも毎月季節にあったものに変えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分の居室を掃除していただいたり、テーブルを拭いていただいたり役割を持ちながら自立した生活が送れるよう工夫している。		